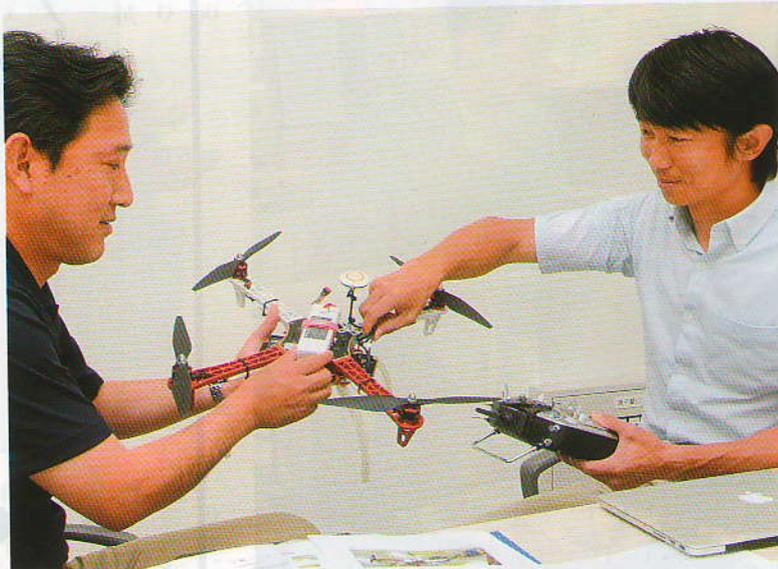


マルチコプター4機を導入 コスト抑えた空撮事業開始

湯梨浜のローディーネット

システム設計などの合同会社ローディーネット（鳥取県湯梨浜町はわい長瀬、津村佳英代表社員）が、マルチコプターによる空撮事業を始めた。災害時の復旧工事に向けた現場確認やインフラ管理、空間デザイン、観光PR写真用などで利用を見込む。



事業に使っているマルチコプターを点検するローディーネットの津村佳英代表（右）と、日下エンジニアリングの佐々木禎社長（左）＝米子市日下、鳥取県産業技術センター機械素材研究所

津 村代表社員が、コンサルタント会社で飛行機による空撮業務に携わった経験があり、ノウハウを生かそうと事業化。4枚の回転翼を備え、機体の直径が約50センチの小型機と、翼が6枚で直径75センチの中型機を2機ずつ購入した。

ともに韓国メーカー製で、姿勢を安定させるジャイロ機能とGPSアンテナのほか、撮影するためのカメラを搭載。リチウムイオンバッテリーを積んでおり、小型機は1回に6〜8分、中型機は10分程度飛べる。

離着陸や空中での上昇や降下、横回転などはコントローラーで操作。半径1〜2キロ以内の飛行が可能だが、通常は目視できる200〜300メートルの範囲で操縦する。撮影はコントローラーを使って行えるほか、数秒おきに自動的にシャッターが切れるよう設定してお



マルチコプターで撮影した浦富海岸。写真は観光PRに役立ててもらおう＝鳥取県岩美町

くことも可能という。

既に鳥取県内の研究機関から、湖沼の水質状況の観測業務を受託。道路工事の完成イメージを作成するための撮影や、橋の裏側、高層建築物といった目視が困難な場所の劣化状況の確認、観光パンフレットやホームページ用の写真撮影などでの活用を見込んでいる。

1回のフライト料金は5万円。当日の風速や撮影場所などによって機材を使い分け、大型ヘリコプターやクレーンを使って撮影するのと比べ、半分程度の低コスト化が図れるという。

津村代表社員は「さまざま



中国横断自動車道の鳥取自動車道の建設前を撮影した写真。工事後の完成イメージを作成するのに活用してもら

なジャンルでニーズがあると思う。依頼を受けてからの対応の早さと、低価格を売りにしていく」と話した。

今後は、マルチコプターのメンテナンスを担当し、電子部品製造などを手掛ける日下エンジニアリング（米子市日下、佐々木禎社長）と連携し、飛行時間の延長などにつながる関連部品の開発を進める。

マルチコプターをめぐるのは、揺れを抑える周辺部品の開発などで、活用の可能性が広がっており、空撮のほか、米アマゾンが商品配達への利用を計画していることが明らかになっている。